

令和6年度第3回高知県スポーツ振興県民会議 議事要旨

日時：令和7年1月16日（木）13:30～15:30

場所：高知会館 白鳳

出席：委員24名中17名が出席

出席委員：井奥副会長、中平副会長

大坪委員、尾下委員、刈谷委員、川上委員、生島委員、新開委員、須内委員、
田井委員、竹島委員、武市委員、常行委員、寺村委員、深見委員、藤原委員、
前田委員

専門的知見を有する者：板原啓文、須賀昌彦

議事：（1）令和6年度スポーツ施策の取組状況等について

（2）第3期高知県スポーツ推進計画のバージョンアップについて

＜報告事項＞県民体育館の再整備に関する検討について

1 開会

知事挨拶

本日は、大変お忙しい中、3回目となる高知県スポーツ振興県民会議にお集まりいただき感謝申し上げます。

常日頃、皆様方には本県のスポーツ振興に関して一方ならぬご尽力をいただいていること、心より感謝申し上げます。

本日は、主として県のスポーツ推進計画の今年度の推進状況をご確認いただくこと、そして来年度に向けての計画の強化の方向についてご審議をいただきたい。

昨年の振り返りをさせていただくと、おかげさまで、スポーツの面で非常に明るい話題が多かった年だったと思う。

夏には、オリンピック・パラリンピックで本県出身の選手が金銀4つのメダルを獲得し、県民の皆様に感動を与えていただいた。年末には高知ユナイテッドSCが悲願のJリーグ参入を成し遂げた。

また、秋の国スポ、これはかつて47都道府県中最下位が本県の定位置であったが、今年は38位ということで、スポーツの持つ力を改めて実感するとともに、県民の皆さんにいろいろな意味で元気、勇気を与えていただいたと思う。これも委員の皆様方をはじめ、関係者の皆様が本県のスポーツ振興に長年にわたりご尽力いただきました賜物だと思う。

そして、こうした本県選手の活躍というのを見ると、スポーツの振興、或いはスポーツ振興を通じた観光の振興という面や、人口減少問題を始めとする、県が抱える様々な課題の解決

に向けても、粘り強く諦めることなく、一生懸命取り組みを続けていくことで道が拓けてくるということを私自身非常に強くしてるところ。その意味でも、昨年のスポーツ界での明るい話題というのは嬉しいニュースだったと感じる。

昨年からのスポーツの盛り上がり、或いは意識の高まりを、今後のスポーツ振興にもつなげていくということで、本日は来年度に向けた施策の強化のポイントについてもお謀りする。具体的には、最近のeスポーツやスケートボードのような、若者に人気の新しいスポーツの振興をどのように図っていくかといった課題や、県有のスポーツ施設、中でも県民体育館が築50年を経て、再整備の計画づくりも必要ではないかといった議論についても、本日はご紹介させていただき、皆様のご意見、ご助言をいただきたいと考えている。

スポーツの振興について、県や市町村といった行政だけでは成し遂げえない課題であり、事業者の皆さん、各県民のみなさんの協力があってこそ進んでいく取組だと思う。

本県のスポーツ施策がより実効性のあるものになるよう、本日の審議を踏まえて、我々も鋭意努力をしていきたい。

本日は限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見、ご助言をお願いします。

井奥副会長挨拶

知事からお話があったように、昨年は本県出身選手の活躍が多かった。

また今年は、東京デフリンピックの開催が予定されており、陸上競技で強化指定選手となっている選手もいるので、出場に向けて期待が高まっている。

県勢選手の活躍と相まって、スポーツ振興をより一層加速させるようにしていきたい。

また一方で、新聞等で報道されているように、国民スポーツ大会、インターハイ、全国中学校体育大会、そういった総合大会の開催について、国の方で改革の動きがある。

また、部活動の地域移行については、先だって国の中間取りまとめが出された。県と市町村行政が一体となって地域の独自性が活かされるような子どもたちのための環境整備ということに留意をお願いしたい。

本日は今年度最後の会議。皆様の活発なご意見をお願いします。

2 議事

議事（１）（２）について、資料１、資料３-１、３-２を使用して説明。

また、報告事項について、資料５を使用して報告。

資料２については時間の都合上説明を割愛。

●大坪委員

くろしおキッズの人数が少ないということで、私もいろんな学校に行った時に、くろしおキッズと言っても、何をしているかということが子どもたちはピンと来ていない。新聞等のメディアを通して、どんなことをやっているのかを広報したり、インターネットを通じた広報

等により参加者を増やすことができるのではないかと。

高知県スポーツ科学センターで栄養サポートをさせていただいてるが、令和元年から言う
と利用が何倍も増えている。職員さんに関しては、昨年1名女性の方が入られたが、動作分
析等ものすごく増えている、いっぱいいただいているのをよく見かける。利用のニーズは
増えているので、職員の充実等を図っていただきたいと思う。

○事務局（スポーツ課）

くろしおキッズについては、例年150名程度の応募があった。これまでは実際に会場に来て
いただいて、一次選考の測定会に合格した方は二次選考という形をとっていたが、負担軽減
を考え一次選考を書類選考とし、学校で行っているスポーツテストの結果をご提出いただ
く形とした。ところが逆に人数が減った状況。

これについては分析をしたうえで、来年度どのような一次選考にしていくか考えていき
たいと思う。

また広報については、もう一度見直しを図り、より効果的な方法について専門の方にも知
恵をお借りして考えていきたいと思う。

スポーツ科学センターの充実についても関係の方のご意見をしっかりお聞きしたうえで、
できることから対応していきたい。

●尾下委員

スポーツ参加の拡大に関連して、財団が開催しているスポーツ教室について紹介する。

県民の皆さんの健康増進や生きがいづくりを目的にして、春野総合運動公園、県民体育館、
武道館及び弓道場でスポーツ教室を開催している。

令和5年度の開催実績では、4施設合わせて135教室、延べ参加者数が21,033名となっ
ており過去最高を記録した。

このうち県民体育館が一番多く、66教室、12,326人の方に参加をいただいている。

硬式テニス、ソフトテニス、ラージボール卓球、バドミントン、水泳、女性に人気のヨガ、
ズンバ、シンデックス、ロコトレ、ピラティスといったフィットネス、エクササイズ、スト
レッチ運動などのメニューも開催しており、幅広い種目を通年で実施している。

夏休みには、小学生を対象とした陸上教室、走り方教室、水泳教室を開催し、通年で様々
な運動を体験できる小学生チャレンジスポーツ教室などを通じて、子どもたちがスポーツに
親しむ機会を創出している。

また武道館でも、小学生を対象に、剣道、柔道、少林寺拳法、合気道教室を夏休みに開催し、
希望者をそれぞれの道場の練習へ導くことで、武道との出会いも創出している。

また弓道場では、弓道の関心層に向けて、入門コース、初球コース、中級コースといったレ
ベルアップしていく教室を設定し、弓道ファンの掘り起こしに力を入れている。

今後も、インストラクターの先生方のお力もお借りして、参加者のニーズ、トレンドを情報

収集して、スポーツ振興の入口としての役割を果たしていきたいと思っている。

ご説明があった県民体育館の再整備について、先日、中央ブロックの体育館の利用調整会が開催された。県民体育館の利用について、令和7年度の利用計画を固めるための調整会を実施し、競技団体から出された日程の重複をならして、各競技団体の利用日時を設定するという作業を行う。今年度は、100ヶ所以上の重複箇所があり、土日祝、夏休み、春休みは重複する場合が多い。例えば県民体育館で利用希望が重なれば、一方を春野へ振るといった作業をして利用計画を固めていくが、いっばいいいばいの調整となっている。

県民体育館の整備期間が長くなった場合、競技団体が設定する大会を県内で実施できないという事態が想定される。

特に県民体育館は、冷房設備を備えた体育館として、夏休みを大会の多くを支えている体育館なので、例えば2年間の整備期間があるとして、代替施設を準備するとか、整備期間を短くしないと、県大会、四国大会を開催できないという事態も考えられる。そのあたりの調整は今からする必要があると思っている。

もう1点、SSCの立地場所の件について。

SSCは、多くの児童生徒が利用している。学校が終わって、自転車で移動して施設を利用するという姿を日常的に見ているが、学校から遠く、ロスの時間があるのではないかと思うので、今回の県民体育館の再整備に際して、利便性の良い県民体育館の敷地の中にSSCが移転することが、利用者にとって良いことだと思うので、ご検討いただけたらと思う。

○事務局（スポーツ課）

スポーツ教室については、高知県スポーツ振興財団の方で、いろいろ工夫をしていただいて、施設を活用した教室の提供が行われており、感謝している。様々なニーズをスポーツ課の方でも捉えて、スポーツ教室の内容等について依頼したいと思っている。

また、県民体育館の再整備については資料にお示ししているように、仮に計画のとおりスケジュールが進むとすると、令和9年度あたりに解体という形になるので、来年度からそれを想定した利用の調整を関係団体等とする必要があると思っている。

併せて、SSCの移転、拡張等についても来年度の基本計画の検討の中で検討していく。

●刈谷委員

県民体育館の再整備について、高知市との絡みと、南高校の土地利用という課題がぶら下がっていると思う。

一方で、多目的グラウンドのことや、高知ユナイテッドのことも資料に出ている。

立地条件の良い場所に、こういった機能を持ったものを整備するか議論されていると思うが、こういった連携状況なのか、現状を教えてください。

○事務局（スポーツ課）

県民体育館の再整備の検討の中で、高知市との調整を進めている。具体的には県民体育館の土地は現状も高知市にお借りをしている状況。ご存じの通り、隣接する高知南消防署の跡地活用等も高知市とは議論をしてきたところ。

県民体育館の再整備にあたっては、アリーナ自体を現状よりも拡張したいという思いもある。また、駐車場確保となると、現在 82 台分しかないので、どうしても建築面積を広げていくことを検討しなければいけない。

細かい調整は今後ということになっており、高知市の担当部局にも検討会に入っていただき調整を進めており、今後もより具体的な調整をしなければいけないと思っている。

また、多目的グラウンドについては、南中高の跡地の活用も含めて、特にサッカーラグビーなどのグラウンドを活用する競技のニーズが多くあり、多目的グラウンドの整備についても検討会の中で議論をしてもらいたいという委員からのご意見もあった。

しかし、まずは県民体育館の再整備を優先させる形で議論をしたので、資料の整備候補地のところ、多目的グラウンドの新たな整備については別途検討していくこととしている。

南中高の跡地の活用については、現在庁内で当面どのような活用ができるのかという議論を進めている。

●刈谷委員

非常に少ない原資なので、どの順番でどういうコンセンサスを得て進めるのかという、ものすごく大事な岐路に立っていると私は思う。その間に、南海トラフの課題も見え隠れしているので、かなり急がなければいけない命題ではないかと考えている。

●川上委員

スポーツは、健康スポーツと競技スポーツに大きく分かれ、盛り上がっているのはほとんどが競技スポーツを主体として、それに伴うインバウンド等のいわゆる経済的部分。一方で、健康スポーツは高齢者を中心としているが、盛り上がりは小さい印象。

資料に成人の週 1 回以上のスポーツ実施率 65%、51%とある。ここにおけるスポーツの定義、何をもってスポーツに参加したということになっているのか。

私の周りを見ると、競技スポーツをやっている人はいない。散歩、登山、トレーニングで筋肉を鍛えるようなことだけ。それをスポーツとしてカウントしているというのであればそれはそれで良いとして、中国では、高齢者が公園で高齢者用の器具を使って体を鍛える姿を見るが、そのような高齢者が健康維持するための施策はあまりない。

そういった器具等を各スポーツ施設に作っていただくことは、健康維持、寝たきり防止という意味では意義のあること。

S S C は非常に活動が盛んになっており、また、競技スポーツにおける高知県の立場は非常に大きく、強くなっている。喜ばしい一方で、競技スポーツの問題点は、はっきり言って健

康に悪いこと。Jリーガーの半分は手術をしているように、けがをしてしまう。そういう意味では、スポーツ障害の予防ということを考えていく必要がある。

県が、メディカルチェックというのをやっているが、これは1年に1回。内科的なメディカルチェックであれば1年に1回でもそれほど大きな問題はないが、整形外科的なメディカルチェックは1年に1回やっても意味がない。どの筋肉がどのように疲労をしているのかというのは、細かくチェックしていけば障害予防に繋がるだろう。

そういったメディカルチェックを各チームでやれるような制度が必要ではないかということで、以前メディカルマネージャー制度というのを作りかけて、各チームに整形外科的なメディカルチェックができる人材を作っていこうということをしたことがある。

今後、SSCのキャパシティがある程度限界を迎え、これ以上にやっていこうとするのであれば、各チームにメディカルについて詳しい人材を養成し、各チームでセルフメディカルチェックというような制度を作っていけば、スポーツ障害の予防に少しは関与できると思う。

公認スポーツ指導者が1,500名を超えているが、その1,500名が現在何をしているのか、スポーツに関連したことをされているのかどうか。

おそらく、何年かごとに更新の講習会を受ければ資格は継続になると思うが、その中に、こういうことに参加をした、といったような実績を確認する制度が設けられないのか。

スポーツ指導者を現場に引き入れる施策も必要と思う。

○事務局（スポーツ課）

スポーツ実施率の定義について、いわゆる競技スポーツだけではなく、散歩などを含め体を動かすことというように幅広くとらえた調査。健康志向の活動など、すべて含まれている数値になっているとご理解いただければと思う。

高齢者のスポーツの活性化、充実というところについては、計画の柱の1つめであるスポーツ参加の拡大に含まれてくると思う。

当然、子どもから高齢者までのスポーツの推進というところが重要なことではあるが、現在の計画の中では、まずは子どもと障害者の活動にポイントを絞った取り組みを行うことで整理をしている。

中高年の活動などについては、特に市町村や総合型地域スポーツクラブなどで行われていることを、どのように県として後押しできるのかといった考え方で進めている。

SSCでの障害の予防に関することについて、メディカルチェックについては、どれだけ効果が出ているかというところは、私も疑問に思っているところ。来年度以降、セルフチェックや人材の育成ということについては、より効果があるような仕組みづくり、体制づくりというところを具体的に検討していきたいと思うので、また相談させていただきたい。

公認スポーツ指導者については、すべての有資格者が指導者として活動していると言うのは難しいと思う。明確な数字は把握していないが、国民スポーツ大会のコーチ・監督になるとか、スポーツ少年団の指導をするときに必ず必要、というような条件づけもされているという中での資格の取得と捉えている。できるだけ現場で活動される方が増えていくよう、取りまとめをされている県のスポーツ協会と相談をしていきたいと思う。

●須賀氏

事務局の説明では触れられてなかったが、資料4を事前に見てきた中で、産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実。これはおそらく来年度以降もやっていくと思う。

金融の面で、何か産学官民金の連携で支えることができないかなということを考えており、弊行では高知新聞社と一緒にクラウドファンディングのプラットフォームを持っている。

「えいねえ高知」というもので、高知県に関するクラウドファンディングのプラットフォームとなっている。

地方自治体や地域のスポーツ団体と連携し、何とか地域のスポーツ振興にクラウドファンディングが使えないかということを考えている。

実績として、香南市の方で全国から16チームが参加する12歳以下のサッカーの大会運営に利用していただいている。

クラウドファンディングで集めた資金は、県外から来るチームの宿泊費、交通費に充てている。これを過去5回、クラウドファンディングで募集し、合計460万円集まり毎回目標達成している。このようなクラウドファンディングもあるため、ぜひ来年度以降、いわゆる公的なお金がつけにくいところについても、そういった方法があるということを、スポーツ振興の中で皆さんに広く知っていただけるように周知していただければと思う。

○事務局（スポーツ課）

周知の方にもご協力させていただきたいと思う。今後、企業の皆様にご協力いただきく形でスポーツ活動の後押しができる仕組みづくりについて、すぐにご相談に伺いたいと思う。

●深見委員

当行は高知大学と連携し、14年前から合計14回子どもサッカー教室を実施しており、去年は春野と宿毛、吾岡山は雨で中止になったが、1カ所150人ほど集まって開催している。

先般も、高知大学の宮武監督とお話したが、普通のサッカー教室は、サッカーをやっているお子様がレベルアップのために来るが、当行のサッカー教室はサッカー未経験の子が多い。いわゆる入口の教室ということで、結構異色だと監督に言われました。そういったところもあるということで告知させていただく。今年も実施予定。

高知ユナイテッドについて、スポンサーをしながら何とかJ3に参入することができてほっ

としてるところだが、実際のところこれからが重要。

社長とも話したが、JFL と違い、相手チームが高知へ来る場合、他県からたくさんの観客が来る。

リーグ戦がスタートしてから、バスや電車がいないといったことにならないよう、私どもも協力できるところはするので、交通網の整備をお願いします。

○事務局（スポーツツーリズム課）

高知ユナイテッド SC のホーム戦でのアクセス手段の確保については、今年度も後半の試合からシャトルバスの運行支援を行った。

J3 参入後も、引き続き支援をさせていただきたい。

また、チームと連携し、近隣の民間駐車場等を借りる軒先パーキングシステムなどの活用を検討している。併せて、会場にはできるだけ乗り合わせで来ていただくような広報をしたいと思っている。

●生島委員

人材育成の方で、このバージョンアップのポイントでいうとおそらく3番のところにあたると思うが、私の大学はいわゆる高知県の私学として、県と連携を取りながら、県内で活躍するような人材の育成を目指している。

スポーツに関しては、学生についてもスポーツにおけるニーズ、学びたいという思いも結構多い。

例えば、龍馬マラソンについては、看護学科や臨床検査学科の学生を中心に、多くが救護ボランティアで関わっている。今後も、ボランティアに参加することによって、学生にまたとない教育の場を与え、経験にもなっていくと思うので、今後もそういった連携を深めていきたい。

また、学生は本当に多種多様で、どこに学生のニーズがあるのかわからない面もある。様々な情報を、行政に限らず、地域の様々な方からいろいろな情報、いろいろな場をもらいながら、そしてそこに少しでも携わっていくようなことをしていきたいと思っている。

個人的には、大学と県のスポーツでの連携が取れていると思っている。それをもっともっと活発にしながら携わっていききたいと思っている。

○事務局（スポーツ課）

生島委員、前田委員にも、日頃から学生のご協力や大学との連携について、ご尽力いただいている状況。高知県のスポーツサミットという、大学生と一部高校生がスポーツに関する提案や研究の成果を発表する場をこれまで複数年に渡って開催している。内容も非常に興味深いところもあり、そこから私どもが具現化することができるものがあれば対応していきたい。また、日頃の活動の中でも、学生さんをはじめ大学の方々との連携協働というところ

については、引き続きしっかりやっていきたい。

●新開委員

バージョンアップのポイントの9番、地元プロチームと連携したスポーツの推進というところ、スポーツの力を活用した地域経済の活性化に向けて、今年は大事な1年、チャンスになる1年になると思う。

特に、高知ユナイテッドがJ3に参入し、ホーム戦の観客増を見込めると思う。それと同時に、アウェー戦に高知のファンが応援に行く、双方向の交流が大事かと思う。そうなれば結果として相手チームのファンの方も応援に来てくれる。

そういうことが大事になると思うので、旅行会社としてもアウェー戦のツアーを造成するなど、積極的に連携していきたいと思っているので、一緒に盛り上げていければと思う。

○事務局（スポーツツーリズム課）

高知ユナイテッドの試合について、J3では1試合平均3,000人という公表もされており、我々もその1試合あたりの平均を目標に取り組んでいきたい。

ホーム戦においては、地域おこし協力隊をチームの方に配置し、観光PRなどを行ったり、また、アウェー戦においては、チームとの連携、他県とも連携をして、双方向の交流を促進し、本県への誘客または送客につなげていきたいと思っている。

●須内委員

資料1の子どものスポーツ環境整備事業に到達目標③子どもの体力・運動習慣の向上が挙げられている。実績評価Aということで、一定成果も出ていると思う。

私たち学校の教職員が学校の体育でこだわりを持って指導していく、また授業を改善していくことは、子どもたちにとっても、高知県のスポーツを振興するうえでも大事だと思っている。

本校の事例で言うと、年度始めに体力テストを実施し、結果を示すだけではなく、体育の授業を通して、年度末にどこまでそれが伸びたかを見ている。また、同じ学年が次の年度でどう成長したかも見ている。そして、1年生から3年生になったときに、子どもたちがどれほど成長したかということを見ていくような体育の授業を展開している。

子どもたちは、保健体育の授業で学んだキーワードである自分で考えて判断する力、チームで助けることやリーダー性、応急処置、生徒によっては食生活などを意識して取り組んでいる。保健の授業と実技である体育の授業とのリンクを子どもたちが意識するような、そういったレベルまで持っていくような体育の授業をすることが大事。

これは私が勤務している学校に限った話なので参考にならないかもしれないが、実際に年度総合評価Cの子どもたちが、食事面、運動面での目標を提示しながら日々取り組むことで、総合評価や得点が上がっているという事例もある。

体力テストをやって終わりではなく、体育の授業の中で子どもたちの成長につながることをいかに仕掛けていくかが大事だと思っている。

地域の人材の活用も体育の授業の活性化につながると思っている。

ファイティングドッグスの選手3名ほどに来ていただき、子どもたちにハンドボール投げや短距離走の指導をしていただいた。

1回測定した後、選手の方にご指導いただいてからもう1回測定すると、記録が1メートルほど伸びたというような成果があった。

そういったところでの人材の活用等、より改善を図っていきたいと思っている。

○事務局（保健体育課）

全国の体力の結果を各学校が分析して対応していただいている。特に今回は中学校の男女とも、全国と比べても伸びている。

なぜ去年と大きく違うのか分析してみると、1人1台タブレットを使い、できなかったことができるようになるというようなことが全国より高知県の方が高くなっており、実際みんなでゲームを分析したり、自分のできないところを見える化して、友達同士でアドバイスをしたりといったことがかなり進んできているのではないかな。

体育主任会等で先ほどの事例等も報告させていただく。

●田井委員

土佐市でのダンスイベントにも参加した子どもたちについて、ユナイテッドのハーフタイムでいつも踊っており、ダンスの先生からファイティングドッグスの大会でも踊りたいという要望があり、可能であれば先方のトップの人とおつなぎいただきたい。

資料の障害者スポーツに関して、今回いろいろ数字が上がってきているのは良いことだと思うが、競技団体等に入っていけない障害者の方が結構いて、そういった方の支援をクラブの方でやっており、障害者の施設を回ったりしている。

グループに入れない、でもちょっと動きたいという方を拾えるようなことができればと思う。普段は施設に行って、例えばティッシュ詰めなどの作業をしているが、それが無い日に体育館で何かできないかなということを考えている。

誘致のことについて、旅行会社の方から、大学の合宿で体育館を借りれないかという問い合わせがよくある。すでに使用予定が入っていたりなどで、なかなか貸せていないのが現状。ただ、そういったことで県外の人に来てくれると、高知県の経済活性化にもつながると思う。そこで、県を挟んでもらうとか、何かうまく貸し出せるような仕組みがあれば、うちも対応できることがあると思っている。

県民体育館の再整備については、良い体育館ができることを楽しみにしている。

市民としては、見た目のカッコ良さより使い勝手の良さが一番だと思う。予算の関係などで中途半端なものになることがよくあると思うが、そうならないことを願っている。

香川県では2月にサザンオールスターズが来ることになっている。そのような大きなコンサートも呼べるものができれば、高知県の活性化につながると思うので、ご検討いただきたい。

○事務局（スポーツ課）

障害者スポーツについて、地域ごとに実情が違うと思う。障害のある方々も、障害の区分、様々なので、地域ごとの実情に応じた対応が必要と思っている。

地域の状況を情報収集しつなぐことができる方、実際に指導していただける方や実際に活動できる場所を提供していただけるところ、そういった様々な対応が必要となるので、地域の実情に応じた対応を考える必要があると思う。

いろいろと教えていただきながら、市町村とも連携しながら考えていきたい。

県民体育館の再整備については、当然ながら予算に限度があるものの、良いものができるようしっかりと検討していきたいと思う。

○事務局（スポーツツーリズム課）

まず、ファイティングドッグスの試合での子どものダンスについては、おつなぎする。

旅行会社からの合宿誘致の件については、高知県観光コンベンション協会の方が一元的な窓口となり県内の市町村、様々なスポーツ施設のご紹介をしている。また、助成金も用意しているので、もしお問い合わせがあれば、高知県観光コンベンション協会またはスポーツツーリズム課におつなぎいただければと思う。

●竹島委員

くろしおキッズは、ファイティングドッグスの方が中心となり、大学生が手伝いながらやっている。人数が少ない分、子どもたち一人一人に目がいくため、ここ2、3年はすごく積極的な子どもたちが増えてきたように思う。

ただ、プログラムについては4年生、5年生、6年生と分かれてやっているものの、4年生はまだ体ができていない。バレーボールでも、最初は痛い、突き指したといったようなことがある。

県にお願いしたいのは、4年生はトレーニングプログラムなどを増やして、ある程度体ができた時点で5年生、6年生のプログラムや競技につなげていくような形にしていきたい。

くろしおキッズ事業は順調に進んでいるとのことだが、誰がどんな競技をやって、こういう記録を出している、ということも資料に掲載すれば、もっと皆様に知っていただけたと思う。また、学年が上がるにつれて所属チームの主力となり、大会とプログラムの日程が重なり欠席する場合がある、ということについては数年前から言われていることなので、もう少し日程の調整ができるのではないかなと思う。

○事務局（スポーツ課）

プログラムの検討委員会を立ち上げて検討はしているものの、おっしゃるとおり子どもたちの発達状況によって配慮が必要な部分があると思う。ご指摘の点を踏まえてプログラム内容を考えていきたいと思う。

成果の公表についても意識していきたいと思う。

5、6年生の出席率については、場所の確保の関係で、日程調整を年度の初めにやらなければいけないため、非常に厳しいところがあるが、積年の課題でもあるためどのような対応ができるのかももう一度考えてみたいと思う。

●武市委員

私たちは総合型ということで、多世代、多志向、多種目といった形でクラブを運営している。資料の中で、取組の中に市町村訪問等によるヒアリングとあり、おそらく各市町村によって、地域性や環境が違うと思う。それに応じたアドバイス、マネジメントが必要だと感じている。今は競技スポーツの割合が多いプログラムが作られている。

高知県は、相対離婚率が全国でも著しく高い。その中でお子さんたちの看病、加えて今後の超高齢化社会、医療費の増大、介護の問題、認知症、コミュニティーの希薄化、子どもの体力低下と体力の二極化、指導者の先生方の高齢化、そういった中で、高知県の特徴や価値観をどのようにして、県、市町村が共有していくか。地域課題を洗い出して、どのようにスポーツをつなげていくかを検討することが重要だと、総合型地域スポーツクラブを運営していて感じる。

県民体育館の建て替えに関して、南国市立スポーツセンターを管理運営しており、体育館には冷暖房機能がついている。私たちは、平成14年の高知国体後、その建物が負の遺産にならないよう努めており、南国市では総合型地域スポーツクラブが運営することによって、50プログラムぐらいの種目を日々行っている。

建て替え期間中に、7月、8月の夏休み期間中、高等学校、中学校の競技大会が平日も重なってくる可能性があり、そういった大会等の情報があれば早めに言っていただきたい。

平日も高齢者から子どもたちの夏休み教室もたくさんやっており、それを調整することも必要となる。

○事務局（スポーツ課）

体育館の整備に関することはもちろん早めに情報共有させていただきたいと思う。

前段の、地域の実情に応じた取組については、各市町村のスポーツに関連する状況を調べており、それを市町村の担当部署だけではなく、地域の方々と共有できるように今後進めていきたいと思っている。

様々な情報を提出していただいております、それをもとにどういったことが必要なのか、課題があるのかといったところは、一部の機関だけではなく地域の方に共有して対策を幅広く進めていくことを意識していきたいと思う。

●板原氏

体育館の再整備について、現在地での改築という最終決定をされるまでには大変なご苦労があったのではないかと拝察するところ。利便性という話もあったが、場所的には利便性も確保できる代替の場所があるのではないかと思います、かなり議論、検討された中で、現在地でやるしかないという話になったのではないかと思います。

しかし、整備期間として3年間空くというのはすごく痛い。その間の対応をどのようにしていくかというところで、他の市町村の体育館で対応する等々もあると思うが、エアコンの整備状況などがネックになる可能性がある。

市町村の小学校、中学校の体育館の冷暖房について、国も制度改正で若干補助率を上げているものの、断熱をやっていないといけない等のハードルあり、非常に高額な改修費、またランニングコストというようなことで、なかなか改修は進んでいない状況。県から一押ししてもらおうと改修が進み、整備期間の代替となれる可能性もあるのかなと思っている。

当市の市民体育館も老朽化しており、改修すべきところが多くエアコンどころではないというところもある。そういった高知市近郊の中でも課題はあるものの、代替の可能性はあると思うので、視野を広げて検討していただければと思う。

○事務局（スポーツ課）

非常に大事なところであり、悩ましい部分も当然あるが、どこを活用できるのかといった整理をし、近隣の市町村などが所管している施設などの活用も含めて、ご協力をいただかなければいけないところが出てくると思うので、できるだけ早くどういった大会があって、どう調整が可能なのか、情報共有、ご相談をさせていただきながら丁寧に進めていきたいと思う。

●常行委員

県の体育館の改修についてはすごく費用がかかる場所なので、期待している。

著名な方が高知で何かエンタメのイベントをされる時は、県外からでもかるぽーとや県民

文化ホールに行けば必ず見れるということで、結構中年世代をメインに高知県っていうのはいい場所だと思ってもらえると思う。

その他の施設との棲み分けについて、体育館の再整備にあたって検討されているのか。

○事務局（スポーツ課）

スポーツ大会のことで言うと、県内大会は今の県民体育館でも様々な大会が行われており、周辺の体育館との棲み分けを考えると、特に全県規模の大きな県内大会での拠点の施設というところで新たな施設を整備する必要があるのではないかと考えている。

また、プロスポーツ、トップチームの試合を誘致することについて、県内のスポーツ振興にとって重要な視点だと思っており、例えばBリーグ、Vリーグなどについては、一定の収容人数というところも条件付されたりといった流れもある。2,000人規模や3,000人規模ぐらいまでのものであれば、現状でも何とかできるが、それ以上のものを受け入れるとなると新たな施設が必要。

コンサートについても、県内の文化施設については現在もある程度受け入れがあるものの、約2,000人以内というキャパシティなので、県立施設の役割としてそれを超える機能をつけていくことが必要と整理している。

●寺村委員

くろしおキッズに応募してきて、選考から外れた人がいるかと思う。その方たちはある程度スポーツに関心のある層だと思う。そういう方達がくろしおキッズではなく、別の形でスポーツに関連したりすることができれば、非常にいいと思う。

健康づくりもスポーツの結果だと思うので、小さいときからある程度健康づくりを兼ねて、スポーツに携わることで興味を持ち、生涯健康に生きていくということの1つのきっかけづくりになるのではないかな。また、いろいろな方が誘い合ってくると、保護者もついてくるので、より活気が出てくると思う。

資料3-1のポイント8のインバウンドのスポーツツーリズムということで、海外からのエントリーとの記載がある。

私自身、12月に海外留学生を自宅に受け入れたが、宗教上の食事のことで困った。高知県にはこれだけたくさんの食材があるのに、ハラル食と言われる飲食可能なものを軒並み探したが、なかなか見つからなかった。

ただ、海外から来た方に高知の印象を聞くと、自分たち以外に海外の人がいないことが好評だった。また、体育館のそばを通ったときに、こんなに広いところにぽつんとあるのがすごく良いと言っていた。体育館の再整備における交通の利便性とは違い、そういう観点もあるんだと思った。

コロナ前は海外留学生を、何かのイベントに紐付けて受け入れていたが、コロナ禍を経てホ

ストファミリーが減っているのが現状。宗教上の関係で食事の制限がある中で、受け入れるハードルは高い。

ハラル食を扱うお店などを教えてもらえれば、引き受けられる人が増え、海外留学生の受け入れの増加につながるのではないかと感じた。

県民体育館の再整備について、コンサートを呼ぶために音響は中途半端なものにならないことを願っている。

○事務局（スポーツ課）

くろしおキッズの選考から漏れた方については、現在も体験できるスポーツの情報などを提供させていただいている。ご紹介もありました企業の方々が行われている取り組みなどについても幅広く捉えて、選考から漏れた方により幅広い情報提供を意識して対応していきたいと思っている。

音響については、おっしゃるとおりコンサートだけではなく、スポーツのイベント等でも音響によって随分雰囲気が変わることがあるので、どこまで対応できるのかは今後の検討になるが、しっかりと意識していきたいと思う。

○事務局（スポーツツーリズム課）

海外からのスポーツ合宿の受け入れについて、例えばハラル食については、県内でいくつかご提供されているところもあると聞いている。高知県の地産外商公社がそういった情報を持っているので、また案件があればご紹介させていただきたいと思う。また、スポーツコミッションの方でも、海外からの受け入れをかなりやられているので、ノウハウの情報共有をいただいたりなどしながら進めていきたいと思う。

●藤原委員

高知県は東西に広いので、看護協会の地区支部において住民の健康支援を目的に、まちの保健室という事業をやっている。主に高齢者が来られるので、歩いたり、日常で体を動かす等を行い、お話などしながら地域住民の健康づくりに貢献していけたらと思っている。

これからますます高齢化していく中で、高齢者の健康づくりのためにどのようにスポーツを取り込んでいくのかということは重要な課題なので、地域ごとに住民を重視した町内会などの地域に密着したところで、百歳体操であったり、とにかくそこに行くだけでも体を動かすので、家の中で閉じこもるのではなく、集会所等に歩いていく、それも1つのスポーツだと思うので、日常の中にスポーツを取り入れることで健康づくりに貢献できたらと思っている。

くろしおキッズについて、6年生で終了したあとのフォローであるとか、その子どもたちがその後スポーツにどのように取り組んでいるのか、追跡みたいなものがあれば教えていただきたい。

○事務局（スポーツ課）

スポーツと健康というのは非常に密接なので、庁内でも健康の部署、福祉の部署としっかりと情報共有、連携しながら取り組んでいきたいと思う。また、市町村との連携についても、多くがスポーツの担当部署は教育委員会の生涯学習課なので、それ以外の首長部局の健康の部署や福祉の部署などとも情報共有をさせていただきながら進めていきたい。

くろしおキッズの終了後、中学生になってから、基本的にはそれぞれの活動ということになってくるが、後の追跡調査として、半数を超える修了生から、どういう活動を続けているのか、競技の成績がどのような形になっているか、情報収集をしており、国民スポーツ大会の出場や全国大会で入賞したなどといった結果を残されている方がおおよそ5割を超えていると捉えている。

●前田委員

スポーツとまちづくりという議論が全国でも活発になっている。インナーやアウターといった考え方があり、インナーというのはその地域の中で健康増進などを進めていくという考え方と、外から人を呼んでくるところのバランスをいかに取るかということが非常に重要だと思っており、特にこれからは地域の特色を活かす部分がすごく重要になってくると思っている。

昨年度の地域スポーツ推進部会の方でも議論にあがったが、例えばお遍路さんなどをこれからスポーツの枠組みとして取り入れると、地域の外側の人と、地域でやられている人たちの交流も生まれていいんじゃないかと。私もサポートさせていただいたダンスの取り組みも、ゆくゆくはよさこいの機運醸成につながっていく可能性もあり、地域の文化資本的なものをスポーツと結びつけることによって、特色に結びつけることがすごく重要ではないかと思っている。

新しくeスポーツやアーバンスポーツも追加されていると思うが、徳島県に大きな施設もあるなど、そういった新たなスポーツをどう結びつけていくのかっていうことを考えると、当然高知県の中での若者の居場所づくりにもなると思う。

eスポーツや新しいスポーツを行う中でも、どうしたらこの高知県に愛着を持って、その後も継続的に住んでもらえるのか、或いは海外からの視点ももっともっとリサーチをして高知県ならではの魅力を深掘りして、こういった計画に反映させることが大事だと思う。

○事務局（スポーツ課）

地域の取り組みについても、まちづくりの視点で考えると、おっしゃっていただいたように、スポーツ単体で何かをしていくよりも、スポーツと何かを掛け合わせる視点が非常に重要だと思っている。

そういう意味では、現在の県の取り組みについても、まだまだ十分でないと思っており、スポーツサミットや本日いただいたご意見を参考にさせていただき、市町村ごとの協議や情報交換の中でも、スポーツ×〇〇という他分野との連携というところはしっかり頭の中に置いて、具体的な提案をしていくように心がけていきたいと思う。

●中平委員

高知ユナイテッド SC への支援をお願いしたい。Ｊリーグのスタートのシーズンということで、大変重要な１年だと思う。

縁があり、この１年間チームに関わらせていただいたが、台所事情を知ると驚く。選手、監督にしても、驚くほど安い給料で、ほとんど心意気でやっているような世界。

来季はＪ３ということで、年間４億円を目標にして山本社長はじめスタッフの皆さんが駆けずり回っている。収入の柱の１つに、ユニフォームのスポンサー枠があるが、メインが５,０００万円。なかなか一企業では出せない。

現状、高知県にはビックスポンサーがいない。先ほどクラウドファンディングの話もあったが、個人や自治体、小さなものでも集まれば大きな支援に繋がると思う。その方が高知県らしい支援の仕方かなと思うところもある。

ふるさと納税が使えないかなど、いろいろ知恵を絞って考えているようなので、ぜひ行政からお知恵をお貸しいただければと思う。

１ プロチームへなぜ行政が肩入れするんだという視点ではなく、経済波及効果も相当期待ができると思うし、何より彼らは選手寿命の短い中で、地域に貢献するために真摯に取り組んでいる選手ばかり。是非ご支援をお願いしたい。

○事務局（観光振興スポーツ部）

本県初のＪリーグチームなので、我々も高知県のスポーツ推進計画の施策の柱であるスポーツ参加の拡大、競技力の向上、スポーツツーリズムの推進、この３つの柱にも大きく貢献をしていただけるのではないかと大いに期待をしている。

財務状況が厳しいということもお伺いしている。四国の他の３県にもＪリーグチームがあり、行政が支援をしている。現在、県の来年度の予算編成の中で、経営への支援、運営上の支援、また、オール高知で支えていくような仕組みづくりを、ふるさと納税なども視野に入れながら考えているところ。近々に、ご案内もできるかと思うので、精一杯支援の方も考えていきたいと思う。

市町村の方も、高知市をはじめ市長会にも依頼し、一緒に支援の体制を整えていこうということで話し合いをしている。

また、民間の方のご支援をお願いできたと思う。

3 閉会

以上

署名 井奥和男